

羅臼の野生生物：陸

厳しい保全対策が功を奏して健康的な野生生物集団と自然の生息地保全につながっている、知床の遠く離れた山森では、野生生物が元気に育っています。羅臼町を訪れた際は、クマやシカなどの大型哺乳類だけでなく、キツネ、野ウサギ、オコジョ、シベリアシマリスといった多くの小型哺乳類にも遭遇するかもしれません。

ヒグマ

知床は、世界でもヒグマの密度が最も高い場所の 1 つになっています。この高密度は、豊富な食料源や健康的な自然の生息地に支えられています。知床のクマは、山の草や花を咲かせる植物、森のやナッツ類や液果類、小川のサケ、そして海岸沿いではアシカや他の哺乳類にアクセスすることができます。

野生でのクマとの遭遇は回避すべきです。訪れる際は、トレッキングの十分な用意をしておきましょう。ただし、ボートツアーでは安全な距離からクマを観察することができます。ツアーは、春から秋にかけて大型哺乳類が食料を求めて移動する知床の海岸線で運行されています。

シカ

シカは、知床の森では一般的で、目撃情報も多数報告されています。望郷の森トレッキングコースでは注意して探してみましょ。草が平らになっている箇所があったら、それはシカが少し前にそこで休憩していたことを示しています。シカは森林地帯から道路へ飛び出してくることがあるので、このエリアを運転する際は特に注意してください。

その他の野生生物

キツネは夜間に住宅地をうろつく傾向があり、人の気配にもある程度慣れていますが、小型の哺乳類は人間が動くときに出す音を聞くと逃げ出す傾向があるため、彼らを垣間見ることができる時間は短いと思われます。